

# 2025年度 事業計画書

公益財団法人 日本国際医学協会

2024年12月5日

## 1、国際治療談話会例会開催

当協会の起源である医学談話会は、初代理事長故石橋長英により、医師卒後教育の推進を目的に大正14年に発足した。昭和30年以降は国際治療談話会と改称され、各専門家による最新医学の知見が数多く講演され現在に至る。また、昭和43年から始まった医歯薬以外の名士による「感想」は当協会独自の講演であり、医療に携わる人は病める人と向き合う上で、医歯薬以外の幅広い見識が求められるという創立者の理念に基づいている。国際治療談話会は、医師のみならず医療関係者に対する生涯にわたる総合医学教育の場として定着しており、当年度も例会を1, 3, 5, 7, 9月の年5回開催する。開催形式は、1, 5, 9月をWEB講演のみ、3, 7月をリアルとWEB両方のハイブリッド講演で予定する。なお、リアル講演の会場は当年度も紀尾井フォーラムを使用する。

## 2、第65回国際治療談話会総会開催

本総会は昭和36年より毎年1回11月に開催し、例会同様に総合医学教育を実践するだけでなく、医学を通じた国際交流に寄与するため、随時海外の医学者を招待し最新知見を取り上げる。また総会においても医歯薬以外の名士による「感想」講演を取り入れ、開催形式は、リアルとWEB両方のハイブリッドで予定する。

なお、当年度は創立100周年にあたるため、日独医学交流をテーマに当協会の歴史を顧みて、日独医学の歴史、留学の薦めなどの講演や討論を予定する。

## 3、国際交流並びに医学情報交換

医師生涯教育に並んで当協会の主要な事業に国際医学交流がある。国際医学交流は伝統的に独国との間で盛んに行われ、過去に多くの医師や研究者が当財団を通じて交流を果たしている。

また、これらの交流は市民まで広がり、栃木県の下野市（旧石橋町）とディーツヘルツタール（旧シュタインブリュッケン）、群馬県の草津町とビーティヒハイムビッシンゲンのように市姉妹都市締結にまで至った歴史がある。他にもレムゴ、カールスルーエ、フライブルクなど多くの市町村やドイツの主要な大学・医療機関と医学交流の歴史があり、国際親善の推進を図ってきた。

コロナ禍で活動は停滞したが、来年度も適時これらの市町村を通じて医学・文化交流による国際親善の推進をはかる。また、下記の配信により、医学情報を当財団から各所に発信する。

## 4、例会、総会会報配信

例会および総会の講演抄録をインターナショナル・メディカルニュース（IMN）としてホームページ上に一般公開し、会員はじめ関係者に定期的に配信している。講演抄録は英訳もされ2024年末には526号に達するが、当年度もこれを継続する。

## 5、例会、総会講演のオンデマンド放映

例会および総会の講演録画（アーカイブ）をオンデマンドで視聴できるようホームページに会員限定ページを設けており、講演の見逃しも後から繰り返し視聴できる。当年度以降もこのような会員特典を充実させ継続する。

## 6、会員入会依頼

維持会員については物故、高齢化等に伴う会員の自然減少に対し、役員、会員協力して積極的に新会員を勧誘する。賛助会員についても当協会の主旨に賛同し、協力を得られる企業の入会を依頼する。

## 7、協賛・寄付依頼

例年通り賛助会員並びに各方面に寄付を依頼し、所期の目的継続のために資する。なお、当年度は創立100周年寄付金募集を別に行う。

## 8、経費削減

事業費、管理費その他、諸経費の節減に努める。

## 9、その他

定款に基づく諸事業の継続と当協会の更なる発展に努める。

なお、当年度は創立100周年にあたるため記念誌を作製し配布予定とし、5月29日には創立100周年記念レセプションをドイツ大使公邸で執り行う予定である。